

県内の広範囲で葉いもちの増加が予測されます

今後のいもち病の発生に注意し、適期防除に努めて下さい

[現在の発生状況]

- ① 6月下旬現在、調査圃場の葉いもちの発病度¹⁾（本年値 0.4、平年値 0.1）および発生地点率（本年値 7%、平年値 3%）はともに平年よりやや高い。
- ② 6月1日以降、BLASTAM²⁾を用いて葉いもちの感染好適条件を判定したところ、6月第5半旬までの出現日数は平年よりやや多い（表1）。特に、6月第3-4半旬に県内の広範囲で感染好適条件の出現が認められた（表2）。
 - 1) 発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。
 - 2) BLASTAM：アメダスデータ4要素（気温、降水量、風速、日照）から、その日が葉いもちの感染に好適であったかを判定するプログラム。葉いもちの発病は、感染好適条件が出現した日から7~10日後に始まると考えられる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は、いもち病の発生源となるため、現在水田に置苗がある場合には、水田およびその周辺に放置せず、持ち出して土中に埋める等の処分をする。
- ② イネの葉色が濃い所や水口等を観察し、葉いもちの初発の確認に努め、発生初期に防除を実施する。
- ③ 例年、梅雨明けまではいもち病の発生が増加するため、現在発生がみられない水田でも注意する。
- ④ いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは、出穂直後から出穂後14日位までである。この期間に降雨が続く場合は、穂いもちの発生に注意が必要である。
- ⑤ 穂いもちを対象とした液剤の散布適期は、穂ばらみ末期~穂揃期である。葉いもちが多発し、上位葉に病斑が進展している水田では、防除を徹底する。
- ⑥ 防除薬剤は表3を参考とする。なお、粒剤およびジャンボ剤で防除する際は、効果が現れるまで時間がかかるため使用時期に注意するとともに、湛水状態で薬剤を散布し、1週間は止水して湛水状態を保つ。
- ⑦ 殺菌剤を複数回使用する場合、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤を選択する。

表1 BLASTAM¹⁾による葉いもちの感染好適条件の地域別の平均出現日数 (6/1~6/25)

	県北	県央	鹿行	県南	県西
本年値	2.5	0.5	3.5	2.3	4.3
平年値	1.1	1.5	1.0	1.4	1.4

表2 6月第3~5半旬におけるBLASTAM¹⁾による葉いもちの感染好適条件等の出現状況

	アメダス地点	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25
県北	北茨城			●		●	●			●					○	
	大子				○	●	●							○		
	日立						●								○	
	常陸大宮					●				○	●					●
県央	水戸					●										
	笠間				○	○						○				
鹿行	鉾田		●	●		●				●				○		○
	鹿嶋		●	●		●						○				
県南	土浦			●		●				●						
	龍ヶ崎									●		○				
	つくば			●		●				●				○		
県西	下館				○	●									●	
	下妻					●				●			●	●		
	古河		●	○						●			●	●		

●：感染好適条件出現日

○：準感染好適条件出現日

1) BLASTAM：アメダスデータ4要素（気温、降水量、風速、日照）から、その日が葉いもちの感染に好適であったかを判定するプログラム。葉いもちの発病は、感染好適条件が出現した日から7~10日後に始まると考えられる。

注) BLASTAMは、広域にいもち病が感染する時期を推定するシステムであり、特定地点の発生を予測するものではなく、周辺地点の感染好適条件の出現状況も併せて判断する。最寄りのアメダス地点で感染好適条件が出現していなくても、圃場によっては感染に好適な条件になっている場合もある。

表3 水稲のいもち病防除に本田で使用できる主な薬剤 (令和2年6月24日現在)

薬剤名	有効成分の種類	FRACコード
オリゼメート粒剤	プロベナゾール	P02
キタジンP粒剤	IBP	6
フジワン粒剤	イソプロチオラン	6
ルーチン粒剤	イソチアニル	P03
ゴウケツパック/ サンブラスパック	トルプロカルブ	16.3
コラトップジャンボP	ピロキロン	16.1
アミスターエイト	アゾキシストロビン	11
トライフロアブル	テブフロキン	U16
ナンブラスフロアブル	トリシクラゾール	16.1
	フェリムゾン	U14
ブラシンフロアブル	フェリムゾン	U14
	フサライド	16.1

注) 農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用基準、注意事項を必ず確認のうえ使用する。